

びわこ大なまず通信

(第2号)

H16.10.1発行

びわこ惑惑クラブ

惑惑 雑感

副会長 今村 房三



現在68歳の赤パンツ。仕事の上でも未だ現役なるも体はまったく動かさず、その体型はまさに信楽の『狸の置物』のごとくである。そんな自分が13年間びわこ惑惑クラブで活動し、ラグビーの魅惑に取り憑かれ、ほぼ月1回の試合と毎週土曜日の練習にほとんど参加しているのが信じられない。

同年輩の友人から「若い!若い!」と褒め称えられ、有頂天になっている嫌いはあるものの、『継続は力なり』とグラウンドを走り回れる?ことへの喜びを満喫している。

健康維持のため、仮に「走れ」「歩け」と言われても、怠け者の私は一人では絶対できないが、チームメイト共々だと走れるから摩訶不思議だ。

また、惑惑ラグビーの魅力の一つには、異業種・異年齢のチーム構成にある。幅広い分野の人との出会い、ラグビーを愛する素晴らしい仲間との連帯に支えられ、練習と試合の中で親交を温められることで爽快な気分が得られる。

とくに、夏の合宿、友好チームとの試合後の交歓会における酒の旨さは、ラグビーをした者のみが味わえる格別の美酒であり、他では絶対味わうことができないものである。

しかして、私は身体の動く限りグラウンドで楕円形のボールを追いかけて、若い青春を今後とも謳歌したい。チームの戦力とはならずとも口技で補い、ラグビーを愛し続け、命ある限りびわこ惑惑クラブのメンバーであり続けたいと思う昨今である。



エンジョイ“楽苦備”(ラグビー)

バックリダー 伊佐治 望



ラグビーとのつき合いは、もう30年あまりになる。一つのボールを追いかけて、相手に勝つことだけを目標とし、高校、大学、社会人とそれぞれの場面で自分なりに一生懸命がんばってきた。

現役を退いてからは、しばらく体を動かすことがなかったが、何となく心の中に穴があいたような感じを覚え、もう一度グラウンドへ足を運ぶようになった。

年齢を重ねるごとに昔のような動きはできないが、それなりに楽しくおもしろい。

しんどくなったら休めばよい、また走りたくなったら走ればよい。

何よりも自分のペースで練習・試合ができるのがとても心地よい。

ある先生が『ラグビーとは、楽しさと苦しさを備えたスポーツである』と言われたが、いま私のラグビーは、楽しさだけを備えているスポーツである。

チャンピオンラグビーからエンジョイラグビーへ!

これから体が動くかぎりラグビーを楽しんでいきたいと思う。

H16年度“夏合宿”について

広報担当 松田 准一

今年の“夏合宿”は、例年になく盛大に開催できた。とくに練習参加者が28名と多く、宿泊合宿者も24名と、登録メンバーの約半数が参加された。

- 1. 合宿日: H16年9月11日(土)15:00~ 9月12日(日)12:00
- 2. 場所: 栗東市『金勝の里-森遊館』/平谷Bグラウンド
- 3. 参加者: 練習参加者: 28名(4名は土曜日の練習後帰宅)
納涼会: 24名(バーベキュー)

当初、今年の合宿は「ご婦人」の参加を期待し、家族ぐるみの交歓会を予定して女性用の宿泊施設を手配していたが、残念ながら参加希望者が少なく断念した。来年はぜひご婦人を含めた交歓会ができるようになりたいものである。



タッチフットの風景



走る!走る!走る!



朝のリラックス風景

組織強化のためのPR活動

広報担当

びわこ惑惑クラブの構成メンバーの平均年齢は54歳であり、このままでは、年々高齢化の方向に進むのは明らかである。

このH16年度から、クラブの中に「組織強化委員会(浅羽委員長)」を設け、クラブの若返りを図るべく活動を開始した。その一環として、読売新聞の『しが県民情報』欄にクラブの紹介記事を掲載させてもらった(H16.7.8発行)。

また、11月の滋賀県ラグビー祭のプログラムにもクラブの広告を掲載して、新人の加入を呼びかけることにしている。



滋賀ラグビー祭広告

読売新聞 しが県民情報での紹介

新入会員の紹介: 組織強化活動の成果が、4名の新会員が入会された。



竹中好充氏

1948生

FW



三津井 実氏

1960生

BK



村上 功氏

1961生

BK



新 隆博氏

1967生

BK

4名の加入で平均年齢が53歳(-1歳)となった。

編集後記

・今回は情報が盛り沢山で、詳細まで記述できなかったことをお詫びしたい。次回からは散漫にならないようにしながら充実した広報誌にしたいと反省している。 松田